

## Alexander PROKHANOV (アレキサンダー・プロハーノフ) 氏スピーチ (日本語訳)

私は 70 周年を迎えた広島と長崎の原爆に対する深い思い、悲しみを、日本の皆さんと一緒に体験するために今回来日しました。私は作家として、過去 10 年にわたって、さまざまなことを見てきました。例えば、カザフスタンにあるセミパラチンスクの核実験場で原爆が爆発するのを自分の目で見ました。爆発後残った炭鉱に数年後に私は入りましたが、地獄の真ん中に入ったのではないかと思います。チェルノブイリ事件の時に、私はロシアの軍人、研究者、技術者の方々などと一緒に、その事件の現場にいました。そして今回、昨日と一昨日は広島を訪問し、日本人のお年寄りや子どもたち、花束をたくさん持って来た皆様と一緒に、その時の悲劇をふり返りました。広島の影響の声も聞き、安倍総理のスピーチも聞き、8 時 15 分、原爆投下時刻に空を見上げました。その瞬間、原爆が 70 年前のその当時の日本人を襲っただけでなく、今の私自身を襲ったように感じました。私は、その恐ろしさを身近に感じました。これから私は、自分の印象を皆さんと分かち合いたいと思っております。

いわゆる、原爆の爆発というのは、世界の悪のヒエラルキーにおいて、かなり特殊な立場をとっています。広島で爆発した原爆は、本当に世界における「最悪」と言っても過言ではありません。その悪によって、町、人、物が滅びるだけではなく、人間の将来に対する信頼も破滅させた。日本の空に、原爆を爆発させたアメリカは、やはり、世界における「最悪」に関与したのではないのでしょうか。アメリカの最近の狂気の初段階としては、中近東におけるアメリカの政策があります。さまざまな真に恐ろしいことが繰り返されたことは、狂気の証拠なのではありませんか。この狂気は、全世界に対するものだけでなく、アメリカ自身の苦悩なのではないですか。アメリカは原爆を日本に対して使用したことを、謝罪した方がよい。日本人の皆さんに謝罪するだけでなく、全世界に対して謝罪した方がよいと思います。

世界における「最悪」を体験した日本人は本当に特殊な民族であります。その視点、その立場から見れば、キリスト教的に言うと、日本人はいわゆる殉教者と言っても過言ではありません。そういう意味で、日本人は本当に他の民族とは全く違う特殊な例であります。ですから、日本人の中から絶対、将来を予言して、本当に将来へ導く人物が生まれるのではないのでしょうか。全世界の民族、全世界の人々が、日本からのその新しい言葉、新しい人物を待っています。期待しています。

日本人と同じようにロシア国民も殉教者と言っても、過言ではありません。あの第二次世界大戦中、ロシアでは 2700 万人が命を落としました。ですから、恐ろしい苦しみを体験したロシア人も、日本人と同様にぜひとも世界に対する、将来に対する、新しい言葉を発信すべき国民であります。日露は経済、政治、時には軍事の側面だけではなくて、そうい

う、将来に対する大いなる目的によって合同すべきではないでしょうか。日本人の作家、画家、哲学者の人たちは、その大いなる課題の解決のために団結すべきです。私が議長を務めているイズボルスク・クラブも、同じ考え方を持っている日本の組織を見つけ、協力したいのです。

昨日の広島での平和記念式典におきまして、一つのこと気がつきました。私が非常に驚いたのは、安倍総理大臣も、松井広島市長も、どこの国が原爆を落としたのかについては、一切、発言しませんでした。原爆資料館には、本当に恐ろしい写真やさまざまな展示品の中に、原爆の模型が天井にかかっています。ただし、どこの国が原爆を落としたのか、一切説明されていませんでした。日本の偉大なる国民は、この問題について、何らかのタブーを持っているのではないですか。

1991年、旧ソ連が崩壊すると、ロシア人は、戦後アメリカに占領された日本人と同じように不自由さの中に暮らしてきたような気がします。また、未来に対する希望を失ってしまったような気がしました。アメリカによってロシアは、政治、経済、軍事の全ての分野で独立を失ってしまいました。しかしロシアは大変な苦勞をして、主権を復活させました。プーチン大統領は自らの力で、ロシア人に自信と独立主権を取り戻しました。私の目から見れば、日本の専門家は、プーチンの手腕を、綿密な研究の対象にすべきだと思います。

広島では、いろいろな行事に参加しました。また、隣の山口県にある岩国米軍基地の敷地にも入りました。そこでは、アメリカの重爆撃機が離陸していました。日本人の皆さん、やはり日本の、あの素晴らしい折り紙の鶴は、重爆撃機より千倍ぐらい素晴らしいものではないかと思います。ありがとうございました。